
YUMEGIWA LAST BOY

伊織千景

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

YUMEGIIWA LAST BOY

【Nコード】

N8233I

【作者名】

伊織千景

【あらすじ】

学園祭用に作った短編集「ジユウクボックス」の中の一つ。

YUMEGIIWA LAST BOYは、ユメギワ・ラスト・ボーイ2001年11月21日

に発売されたSUPERCARの11枚目のシングルです。映画「ピンポン」の主題歌になったこの曲を使って、高校時代にやっていたアーチェリーを題材にこの小説を書きました。テンポのいい曲に合わせてお楽しみください。

「0.5秒先の未来が見えるの」

彼女は笑顔でそういった。

僕は疑い百パーセントの顔でいるのをまるっきり無視して、彼女は矢をつがえる。

「嘘だと思っしょ？未来なんて見れるわけないって。でもね、ほんとなんだよ」

彼女は的に向かって半身になり、的に目を向ける。

「私には、この矢の未来が見れる」

流れるようなセットアップ。

引き分け。

フルドロー。

一本の張りつめられた糸が、限界まで引き延ばされるような緊張。数秒の静寂が流れる。

シュッ！

彼女の手から弦が離れ、矢が30メートル先の的に飛んでいく。

ダンッ！

そして、まるで吸い寄せられるかのようにその矢は的の中心、Xを打ち抜いた。

フォロースルー

「アーチェリーはね。0.5秒先の未来が見えるスポーツなの」
残身をとったまま、的から目を動かさず、彼女は言う。

「普通は弓を引いて、離れたところだけが重要だと思つてしょ？でも違うの」

「的の前に立つてから、矢が的に当たつてそのあとの残身まで。その一連の動作全部が矢の軌道を決める」

「それらが全部一定にこなせれば、フルドロートときに矢がどこに飛んでいくかわかる。未来が見えるのよ」

「えらく限定された未来だな」

「そういうと、彼女は全くだと笑つた。ただ、そのあとにこう付け足した。」

「私はね。アーチェリーは相当ひねくれたスポーツだと思う」

「それは僕も同感」

「的に向かつて、ひたすらまったく同じ動作で弓を引き続ける。ただそれだけのスポーツ」

「でもね、やめようとは思わない。やめられない」

「私は、この0.5秒ほどしかない一瞬の、でも未来も過去もつながつたような、無限のように感じる時間が好き」

「アーチェリーってそういうスポーツなんだと私は思う」

「なるほどね」

「君にもいつか見れるようになるよ。矢の“未来”が」
「そういつて彼女は笑つた。」

僕に彼女の言う限定的すぎる“未来”が見えるようになる日は来るのだろうかはわからない。けれど、もうすでにアーチェリー部を辞めるといふ意思是僕の中から消え失せていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8233i/>

YUMEGIWA LAST BOY

2010年10月12日08時11分発行